

JBCF 第2回 NTT 東日本真岡芳賀ロードレース

開催日：2025年3月29日（土）

開催地：真岡井頭公園周辺周回コース

距離：7.2km x 17周 = 122.4km

出場：児玉（5位）菅原（19位）阿見寺、藤井、仙洞田、辻、山里、中川（DNF）

初ロードレースの児玉が5位！

去年所属していた渡邊が3位で登壇したことは記憶に新しい。

鹿児島2連戦をスキップしたため実質我々の初戦となった真岡芳賀ロードレース。

気温5度、終日雨のレースは超サバイバルレースとなった。

12の直角コーナーを繋げたコース。コーナーリング中にグレーチングがある箇所が複数あり難易度を高めている。風も読まなければいけないクラシックレースそのもの。

共通認識として5周目までに体力を使い切ってもいいくらいに前で展開しようと約束。

実際に前で動いていたメンバーがレースに絡む走りとなった。

スタートから数周は打ち合いがあるもののそこまで激しい展開ではなく嵐の前の静けさ。

菅原、阿見寺、藤井が前にポジショニングして動いている。

5周目、レースが動き出す。有力どころの攻撃で集団は縦に長く伸び5周時点で集団は60名しか残っていない。

我々は菅原、阿見寺、藤井、児玉、仙洞田、辻が残る。

山里と中川は寒さに対応できず苦しい展開に。

6周目ペースアップを耐えた後の緩むタイミングで3名が先行。

宇都宮ブリッツェン谷選手、ヴィクトワール広島白川選手、レバンテ富士高梨選手。

集団はこの動きを容認し、3名 vs 集団という構図に。

しかしこの動きをブリヂストンは容認せず8周目にレースが動く。
ブリヂストンが総攻撃を仕掛け集団は木っ端みじんに。
菅原のみが生き残る。さすがの嗅覚である。
その後ろの集団に阿見寺と児玉が取り残され、その他は少人数パックで前を追う展開に。

9周目ペースが上がり切った集団からさらに
バーレーンメリダ寺田選手、マトリックス織田選手、キナンレーシング宮崎選手、宇都宮ブリッツェンフェン選手、ブリヂストン松田選手が抜け出しに成功。
結果的にこの動きがウイニングムーブとなった。

メイン集団は30名弱しか残っていない。我々は菅原、阿見寺、児玉の3名を残し次の展開に備える事に。ブリヂストン松田選手が遅れたことによりメイン集団はブリヂストン勢が牽引を開始。阿見寺、菅原も積極的に牽引に加わり前を追うが前の集団が強く差が縮まらない。

13秒差まで詰めたところで次の動きがなくなり THE END.
勝負は先頭集団に委ねられた。

優勝は地元宇都宮ブリッツェンフェン選手
2位バーレーンヴィクトリアス寺田選手 (OPEN 参加)
3位マトリックス織田選手
と続いた。

メイン集団のスプリントに児玉が挑み5位フィニッシュ。
菅原が19位と続いた。
他メンバーも追走を続けたが追いつけず悔しい結果となった。

～監督談～

冬のトレーニングの答え合わせとして位置付けたレース。かつ勝てる可能性が比較的高いと思っていた。

寒さに対応できなかった中川と山里は残念だったが今回の寒さはイレギュラー過ぎるので仕方ない部分はある。出走した半数以上は低体温でリタイアする過酷な環境であった。

個人的には仙洞田が確実に強くなっている。最終完走した集団の後ろでひたすら粘っていた。単年契約の多い自転車界、若手を1年間見ただけで何がわかる

のかと問いたい。

ブリチストンの総攻撃に耐えられる走力、嗅覚を全員が身に着けられるように
今後は取り組んでいく。

勝利はすぐそこまで来ている。選手達はその舞台に立てるようサポートの質を
上げていきたい。

～菅原談～

生きてきた中で一番きつい3時間だった。勝ち逃げが行った時反応できる位置
にいたのに見送ってしまった。もし反応して乗っていたらドロップしていたと
思う。しかしあれに乗らないと勝利はないのでチャレンジしてさらなる地獄の
扉を開き攻略して勝ちを掴み取りたいと思います！

～児玉談～

初めての JPT は激しすぎました。。。ブリチストンのペースアップで集団が木っ
端みじんになった時、何もできなかった。あの展開に対応できる力をつけた
い。

根性は人一倍あるので期待しててください！